

令和5年度 県立取手第一高等学校自己評価表

目指す学校像		・本校の校訓（至誠・醇厚・自強）の精神を礎に、取一精神「力耕不吾欺」の涵養を図りながら、生徒が自ら学び考える力を育み、時代の変化に敏感に対応し、国際社会・高度情報化社会に適応できる能力の育成に努める。 ・総合学科の特色を活かしたキャリア教育の充実と主体的な学びの実践による多様な進路希望の実現を目指し、人間性豊かで活力のある人間育成に努める。生徒が自ら学び自ら考える力を育み、時代の変化に敏感に対応し、国際化。					
昨年度の成果と課題		重点項目	重 点 目 標			達成状況	
・総合学科としての特色を活かし、「産業社会と人間」の授業を核として、横断的・総合的な学習指導体制が確立しつつある。生徒の選択分野に応じた指導による、家庭学習習慣を確立させること、各種検定においてより上の級を目指す意識付けが課題となる。今後は、思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業の展開及び各種検定や共通テストに対応する教員研修の充実を図る。 ・3年間を見据えて、段階的・継続的な進路指導体制を一層強化し、生徒が希望する多様な進路選択に対応する必要がある。 ・組織的・継続的な指導に、服装頭髪指導及び遅刻指導等に力を入れてきた結果、基本的な生活習慣が確立しつつある。今後も継続して指導に当たる。心因的な理由による欠席や心の悩みを持つ生徒が増加傾向にある。教育相談体制を充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見・早期対応を必要がある。 ・コロナ禍において様々な行事や部活動が制限された中でも、工夫を凝らして活動している。集団中での存在感、達成感が得られている。ボランティア活動に参加する生徒が多い。今後は、状況に応じて臨機応変に対応し、所属する集団での課題を見つけ、自らが問題解決できるよう生徒の自発的な活動を促していく必要がある。 ・教員間のコミュニケーションが活発になったことで、業務の分担や軽減が図られ、効果的に業務をこなそうとする機運が高まっている。会議、委員会等の種類及び開催回数が多く、校務分掌や委員会の再編を一層進める必要がある。	1 主体的な学習習慣の確立	①自ら課題を発見・設定し、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるための効果的な学習指導方法とともに、日々の学習習慣の確立を図る。			A		
	2 進路希望の実現と総合学科の特徴を生かした進路指導体制の確立	②総合学科の特色を活かし、生徒の興味関心を軸とし、3年間を通した段階的な進路指導体制の構築と、きめ細かな個別面談を充実させる。			A		
	③推薦入試や総合型選抜を見据えた早い段階からの小論文・面接指導に加え、課外や模擬試験を活用し、一般入試にも耐えうるよう学力の向上を図る。						
	3 豊かな心を育む教育推進	④基本的生活習慣の確立を目指しつつ、人権教育や道徳の授業等によって生徒が自分や社会について考える機会をつくる。			A		
	⑤様々な状況に適応できる自己指導能力を育成するとともに、教育相談体制を一層充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見早期対応に努める。						
	⑥生徒の実態（不登校・特別支援・不適應等）に応じた支援についてチームで考え、年次、生徒指導部、教育相談部及び外部機関等関係者の連携を密にして生徒の課題解決を援助する。						
	4 キャリアパスポートを活用した、生徒の主体的活動の充実	⑦生徒自らが課題を見つけ、問題解決できるよう生徒の自発的な活動をサポートする。			B		
	⑧キャリアパスポートを活用し、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。						
	⑨部活動や学校行事も含めたすべての活動において、生徒の主体的な参加を促し、学校生活の活性化を図る。						
	5 働き方改革の推進	⑩ICT機器を活用し、効率的に職務を遂行することによって、教職員が事務的な仕事量を減らし、生徒とかかわる時間や自己研鑽の時間を増やす。			A		
	⑪教材の共有化・ライブラリー化を進める。						
	⑫部活動においては、短時間で効率的な練習計画を立て、実践する。						
	6 授業改善を通じた確かな学力の育成	⑬授業改善推進プロジェクトを通して、主体的、対話的で深い学びの視点から、思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業を研究し実践する。			A		
	⑭ユニバーサルデザインの視点に立った全ての生徒にとってわかりやすい授業の展開を実践する。						
	⑮授業観察を積極的に行うとともに、生徒自身が自らの学びを振り返る機会を積極的に設ける。						
	⑯生徒による授業評価における授業満足度の平均値3.2						
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	① 本校の校訓（至誠・醇厚・自強）の精神を礎に、取手一高精神「力耕不吾欺（りきこうわれをあざむかず）」を実践できる人材 ② 主体的に学び、時代の変化やグローバル社会・高度情報化社会に対応できる人材 ③ 豊かな人間性を持ち、主体的に社会に貢献できる人材			B	A	・卒業時に何ができるようになっているかを意識したうえでの目標の実現。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	① 総合学科の特色を生かし、「産業社会と人間」の授業を核とした横断的・総合的な学習及び地域と連携した学習の実施によるキャリア教育の充実 ② 充実した情報教育と国際理解教育による、グローバル社会に対応できる人材の育成 ③ 生徒の多様な進路希望に対応した教育課程による、就職から大学進学までの幅広い進路希望の実現			A		・地元の自治体、企業、大学等と連携を強化及び3年間を見通したキャリア教育の充実。
	「入学者の受け入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	① 主体的に学び、自分の進路実現を目指し、地道に努力できる生徒 ② 自らのスキルアップを目指し、多様な資格取得に向けて努力できる生徒 ③ 豊かに人間性を持ち積極的に奉仕活動に取り組める生徒 ④ 自己理解に努め、総合学科のそれぞれの分野に興味を持ち、深く探究しようとする意欲のある生徒			A		・学校説明会、中学校訪問、HP等の広報活動を通して学校が期待する生徒像の周知。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策			関連項目	評価	次年度（学期）への 主な課題
教科指導 （全体）	・ICT機器の活用を活発化し一層分かりやすい授業を展開する。 ・生徒の潜在能力を引き出し、基礎力・応用力を養成するため、学習習慣の確立し、生徒の能力の伸長を図る。 ・現状を把握し、自ら課題を発見・設定し、力、課題を多様な方法で解決する能力の養成。	総合学科として各分野の目標にそった授業計画を毎時間立案し、その内容を理解させる努力をする。			①②⑤	B	・電子黒板、学習端末等ICT機器の活用が浸透し、わかり易い授業が展開されている。 学習評価を意識した授業改善が進んでいるが、主体的に学ぶ姿勢、基礎学力の定着という点では課題が残る。 ・探究活動では課題発見、解決する能力等が育っておりプレゼンテーション能力に向上が見られる。
		電子黒板・学習者用端末を活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学べるよう授業改善に努める。			⑧⑨⑩	A	
		学習評価の在り方を見直し、生徒自身が自らの学びを振り返る機会を設ける。			⑪⑬⑮	B	
		総合学科の特色を活かし、多様な科目を履修することで自己のキャリア形成の一助とする。			①②③	A	
		面談や観察を通して生徒一人一人を把握し、個々の生徒の能力の健全な成長に努める。			②⑦⑮	A	

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評価		次年度（学期）への 主な課題			
教科	国語	基礎学力の向上を図るとともに、国語への興味・関心を高める。	分野の目標に沿った授業計画を立案し、副教材やプリント、ICT機器を積極的に活用して国語に関する基礎知識と応用力を身につける。	①②	A	A	・教科内で模試の分析会議を実施する。 ・教員間で、I C Tを使った授業実践の検討会を実施する。 ・自分の意見を述べる力を育成するため、授業において討論する機会を多く設ける。 ・図書館を活用した授業を取り入れる。			
			資格検定（漢字検定）の取得者数を昨年度比10%増を目指す。	①	A					
			推薦入試や総合型選抜を見据えた早い段階からの小論文指導課外や模擬試験を活用し、一般入試にも耐えうるよう学力の向上を図る。	③	B					
		生徒個々の進路希望に応じた指導を展開する。	授業観察や面談によって生徒の状況を把握し、個々の能力の伸長に努める。	①②	B					
			生徒の状況に沿った課外授業を実施する。	①⑦	A					
			図書館の利用推進を行うとともに、書物や新聞等の日常的利用を促す。	①	B					
		授業改善を通じた確かな学力を育成する。	生徒による授業評価における授業満足度の向上を目指す。	⑬	A					
			授業観察を積極的に行うとともに、生徒自身が自らの学びを振り返る機会を設ける。	⑮	B					
			ユニバーサルデザインの視点に立った全ての生徒にとってわかりやすい授業の展開を実践する。	⑭	A					
	地歴公民	基礎学力を定着させ、その知識を活用して自らの考えを表現する歴史的・地理的思考力、公民的資質を養う	タブレット・電子黒板を活用し、グラフや視聴覚資料等を提示することにより、課題探究型の授業を実施する。	①	A	B	・総合型や学校推薦型など年内入試での受験が多い本校で、一般受験の生徒への指導をどうするか。進路実績を重視するのを含めて、授業・課外の指導のあり方を引き続き検討したい。 ・模試対策の時間や自己採点や事後指導の徹底をしていきたい。 ・来年度からすべての年次が新課程となる。それに向けてさらに課題探究型かつ生徒の思考力判断力表現力を高めることができる授業を追求できるように教材研究を重ね、教材教具の開発に努める。			
			現代の国際的・国内の諸問題について授業内容に盛り込み、歴史的・地理的な因果関係を考えさせる。	③	A					
		共通テスト・私立大学の入試、一般教養問題等に対応できる授業を展開する。	それぞれの出題傾向を把握し、それに対応した課外の実施・定期考査の問題の精選を行う。	①	B					
			模擬試験を通し、多様な問題に対処する力をつけるとともに、事前・事後指導を徹底し、その力を定着させる。	①③	B					
	数学	基礎学力の定着及び数学的思考力の涵養	基本計算の反復練習や、生徒同士の教えあい活動を通して基礎学力の定着を図る。	①③	A	A	・新学習指導要領や新テストに向けての理解と準備を進める。 ・基礎学力の定着がなされていない生徒へのきめ細やかな指導を行う。 ・模試・共通テスト・大学入試等に対応できる応用力を育成する。			
			進路希望に合わせた授業展開を継続し、学力に合わせたきめ細かい指導を通して確かな学力を育む。	①②③	A					
			生徒個々の学力の伸長に努めると共に、補習や課外を実施するなど学力に応じた個別指導を実施する。	①②④	A					
		家庭学習習慣の定着	数学に対する興味・関心を高められるような授業を展開することはもちろん、進路の意識を授業の中でも育てていくことで、自ら学ぶ意欲を持てるよう働きかける。	①②④ ⑤⑥	A					
			課題を定期的に与え、既習事項の確認と家庭学習の習慣を身に付けさせる。	②④ ⑥⑦	A					
			定期考査だけでなく、課題テストを定期的実施する。	②③	B					
		模擬試験・一般入試に対応した指導	教育課程や受験指導の在り方を教科内で吟味し、3年間を見通した指導のシステムを検討していく。	①②③ ⑬⑮	B					
			模擬試験や共通テストレベルの問題を積極的に取り入れ、授業・定期テストと模擬試験・入試問題とのギャップを埋められるようにする。	①②③ ⑬⑮	B					
		理科	科学的な事物・現象について関心や探究心を高める。	演示実験等の実施により科学的興味をもたせる。	①③			A	A	・もう少し課題研究に力を入れる。 ・実験や実習の機会を確保する。 ・生徒の思考力・判断力を高められるような探究型授業を実施する。 ・主体的に学習に取り組む態度を高めるために授業の振り返りの時間を設ける。
				身近なものを例に出し、授業内容との関連付けを行う。	①③			A		
	観察が困難なもの等については、CGや映像資料を活用する。			⑩⑪	A					
科学的に探究する能力と態度を育てる。	観察や実験を積極的に行い、レポートの考察の方法について指導する。		③⑬	B						
	課題研究などを行い、自ら課題を見つけ探求させる。		①③	B						
	授業中の発問を工夫し、思考力を高める。		①	A						
大学入試レベルの学力を身につけさせる。	課外を行い、生徒の弱点の克服に努め、入試問題を解くことに慣れさせる。		①⑦⑬	B						
	入試問題の研究を行い、出題傾向に関する情報を蓄積し、学習効果の向上に努める。		③⑪	A						
	教員研修や教員相互の授業参観を行い、授業の改善を図り、生徒の実力向上につなげる。		⑪⑬⑮	B						
※評価基準		A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分								

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評価		次年度（学期）への 主な課題	
教科	保健 体育	健康に対する意識を向上させる。	健康に対する正しい知識を身につける。	①②	A	A	・ICTの効果的な活用により、新しい体育学習の在り方を考えていく必要がある。 ICTを授業の中でうまく取り入れることで、スポーツや保健に対する新しい価値観を育てることができる。また、コロナ禍においていかに体力を落とさずにいられるかということも課題の一つである。 ・保健に関しては、現代の保健課題を積極的に取り入れ、授業とリンクさせながら問題解決力を育むなど、新しい授業展開をしていくことを課題としたい。	
			グループ学習を通して価値観を広げる。	①②	B			
			自己実現に向けて、ライフ・スキルの向上を図る。	①⑦	B			
		体力を向上させる。	新体力テストのデータを活用し、計画的に体力の向上を図る。	①	B			
			体づくり・体ほぐしを授業内で効率的に取り入れ、継続して行う。	①	B			
			測定・評価基準を確立し、生徒が目標を持って取り組めるように指導・援助を行う。	①	A			
		自主的・主体的に取り組み活発な雰囲気 で活動するとともに、集団行動のマナーを身 につけさせる。	ルールや服装の遵守・準備片付けの協力・大きい声での挨拶の励行等を指導し、積極的に取り組む姿勢を育てる。	①⑦	A			
			声かけなどのコミュニケーションを通して、互いに尊重しあう態度を養う。	①⑦	A			
			体育委員などリーダーシップをとれる生徒を育成し、生徒の自主性を育てる指導をする。	①⑦	A			
			施設・用具を大切に扱う態度を身に付けさせる。	①⑦	A			
	音楽	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて演奏、表現活動を行う。	さまざまな形態や時代の音楽に関心を持ち、主体的に表現活動をする。	①	A	A		
			リズム、旋律や強弱などの形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す音楽的效果を感じ、表現の工夫ができるようにする。	①	A			
		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて演奏、表現活動を行う。	アンサンブル活動の中で、互いに協力し合い音楽を作り上げる喜びを味わう。	①	A			
			世界の諸民族や日本の伝統音楽に対する理解を深め、自分なりの観点をもって音楽のよさや美しさを味わう。	①	A			
			美術	作品制作、鑑賞を通して観察力や創造力を高め、自己の良さや個性を発見する。	鉛筆、絵具などの使い方を覚え、デザインに関する知識、美術表現の基礎を学ぶ。			①
	作品を制作、完成することにより創造する楽しさ、達成する喜びを味わわせる。	①			A			
	自身でコンセプトを考え、制作を行うことで、自己表現の発見と個性を感じさせる。	①			A			
	英語	自発的、継続的学習を目指す。	授業重視の学習指導に加え、予習、復習、週末課題、小テスト等をおとして自ら学ぶ姿勢を養い、継続的な家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	①⑬	A	B		・コースに応じた授業展開の実施、家庭学習の習慣化、基礎学力の定着を引き続き目指す。 ・英検や一般入試対策の実施 ・ICTを活用した組織的・継続的な指導法の研究、確立と共通理解
		基礎学力の定着からさらに実力の養成を図る。	ICTを用いて授業内容を工夫・改善し、生徒がわかりやすいと実感できる授業を行う。毎時間、生徒が学習内容を振り返り、深く理解する機会を設ける。	⑬⑭⑮	B			
大学進学可能な学力向上を図る。		継続的な課外指導等を含めて3年間を見据えた計画的な指導を組み立て、大学一般入及び学校推薦型、総合型選抜入試に対応した指導を行う。	②③	B				
※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分								

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	家庭	意欲を喚起する学習指導を実践する。	生徒の興味・関心を引き出し、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	①⑬	A	A	・グループ活動などが少なかった。次年度は対話の機会を十分に設けたい。 ・基本的な生活技術で、特に調理技術を高めるのは授業だけでは難しい。調理実習などをきっかけに家庭で実践してみようと思えるように授業を工夫したい。
			身近な生活課題に目を向けさせ、主体的・対話的に取り組める学習展開を工夫する。	①⑬	B		
			ICT機器を効果的に活用した授業を展開する。	⑬⑭	A		
		科学的な理解と技術の習得を図る。	体験的に学びながら生活を科学的にとらえられるように、実験・実習を効果的に行う。	①⑬	A		
			基礎的・基本的な生活技術を習得できるようにする。	①	B		
		生活の場における課題を解決する実践力を育成する。	生活の中にある課題からテーマを設定し、課題を解決する方策を発表させる学習を展開する。	①⑬	A		
	工業	単位制総合学科高校に適した工業科の教育課程を実現する。	1年次の分野紹介における丁寧な説明と「分野基礎」の実施を通し、専門課程を熟知した上での分野選択を実現するとともに、生徒の適正人数の確保に努める。	②⑤	A	A	・Classroomやネットワークを利用し、レポートの提出方法や実習のあり方を考える。 ・AIや3Dプリンター、レーザー加工機などを利用した実習に取り組む。 ・安全教育の徹底と事故防止に努め、健全な勤労観・倫理観の育成に努める。 ・生徒の適正人数の確保に努める。 ・資格取得の指導体制の継続と充実を図る。 ・老朽化した施設・設備の計画的な充実・更新を図る。 ・基礎基本を重視しつつ、かつ、社会の変化や「新しい生活様式」に対応できるよう実習内容や指導法について検討する。 ・働き方改革により、教員の勤務時間短縮と、各種研修の充実を図る。
			1・2年次の授業で、「情報数理基礎」「工業技術基礎」の内容を補い、基礎力の向上及びものづくり教育を推進する。	①②	A		
		各種資格指導を充実させる。 ジュニアマイスター育成に努める。	国家資格「工事担任者」「ボイラー技士」については授業において積極的な指導を行うとともに課外指導を行う。資格取得率80%以上を目標とする。また、「危険物取扱者乙種第4類」においても適宜課外指導を行い、合格率40%以上を目標とする。	②⑤	B		
			時代の要請に適応した専門知識をもつ高校生を育成する。	ネットワーク技術やロボット・制御技術、及びCAD・CAMなどの先端技術を取り入れた授業と実習を行い、作品や成果にもとづいた進路実現を図る。	②⑤		
		レポートやプレゼンテーションの指導を各授業に取り入れ、今日の技術者として必要な表現力を育てる。		①②⑤	B		
		教員の専門性（校外研修等）の向上を図る。		①②	B		
		生徒の多様な進路志望に応えるとともに、「ものづくりはひとつづくり」の観点から社会で活躍する技術者の育成に努める。	総合学科の特性を生かし、大学、専門学校、就職のいずれをも視野に入れた指導を行い、生徒の希望進路実現を図る。	②⑤	A		
			将来、社会で活躍できる技術者の育成を念頭に、学力、技能ならびに安全や技術者としての倫理等について継続的な指導を行う。	①②⑤⑦	A		
	商業	ビジネス分野に興味・関心を持たせ、主体的に学習に取り組む態度を育てる。	「分かる」「できる」「楽しい」授業を展開し、商業科目に興味・関心を持たせ、主体的に学習に取り組む態度を育てる。	①②	B	B	・ICT機器（タブレット）の効果的な活用 ・上級資格取得者を増やす。 ・取得した資格を活かした希望進路の実現 ・習熟度に応じた指導の展開 ・ビジネス分野単独クラスの編成。人数確保に向けて商業の学びに興味、関心を持ってもらえるよう工夫したガイダンス等を実施する。 ・進学をふまえ、論理的思考力の育成を図る。
			ICT機器を利用した授業の構築や授業研究を通して、授業改善を行い、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた指導力向上に努める。	①⑬	B		
		ビジネスにおける実践力の育成を図る。	社会的責任を担う職業人として必要なビジネスマナー及びコミュニケーション能力を育成する。	④	B		
		資格指導を充実させ、進路選択の幅を広げる。	グループ学習を取り入れ、主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。	①	A		
			日商簿記検定2級、ITパスポート等の上級資格取得を目標とした課外指導を行う。	①②	B		
			資格取得を通して実践的な学力を養い、希望進路を実現する。	②	B		
情報		情報社会に興味や関心をもたせ、自ら学び自ら考える姿勢を育てる。	情報処理に関する基礎的学習を行い、基礎的な知識を身に着けると同時に、情報技術に関する最新のニュースなどを題材として扱い、知識の定着や学習意欲の向上を図る。	②⑦⑩	A		
	文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報収集などの実習を行い、情報活用能力の向上を育成したうえで、自ら設定した課題を解決するような題材を扱い、問題解決のための思考力・判断力・表現力を育成する。		①⑤⑩	B			
	効果的にコミュニケーションを行う能力を伸ばし、積極的に情報社会に参加する態度を育てる。	情報社会の影の部分を理解させ、社会における情報モラルの問題や社会問題について考えさせようとして、グループワークなどを通して他者と協力して問題解決するための態度を育てる。	①⑦⑩	B			
※評価基準		A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分					

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評価	次年度（学期）への 主な課題	
教務	総合学科の特色を活かし、多様な進路希望に対応するための教育課程の編成と運用を行う。	単位制総合学科としての利点を生かし、将来の社会情勢に対応できる能力を身に付けられるような体制を整備する。 「教育課程検討委員会」・「年次会」・「教科会」等において研究や検討を深め、教育課程の適切な編成・運用を行う。	②⑥⑦	B	A ・教務部の先生方との協力により、業務の改善や精選を行うことができたが、次年度への課題として教育課程、ICT活用が活用できていない先生へのフォロー等が課題として残されている。また、HPIについては情報部、特別活動部、部活動との協力が必須となってくるので、協力体制を整えていく必要がある。	
	生徒情報の管理と適正な運用を行う。	教育支援システム「教助」を有効活用することにより、生徒情報を適切かつ効率的に管理する。生徒の欠課時数や成績不振科目等の把握に努め、各教科・年次・担任と連携し、個々の生徒の指導や学習活動の充実に寄与する。	⑤⑥⑩	A		
	広報活動の充実を図る。	ホームページ・学校案内（スクールガイド）等を充実させ、様々なメディアや機会を活用して本校の情報を発信していく。 学校公開・学校説明会等の更なる充実を図り、より多くの入学志願者の獲得を目指す。	⑨⑩	B		
	学校全体として業務の精選・簡素化を行い、職員が積極的に授業研究および改善に取り組める環境を作る。	ICT機器を活用した業務の改善に努め、授業づくりに集中できる時間を作る。 授業研究や研修の機会を提供し、タブレットや電子黒板を活用した新しい学習指導法を職員が習得することを目指す。 大学入試制度の変化に適切に対応し、本校ならではの指導体制を構築していく。	①③⑩ ⑬⑭⑮	A		
	生徒の学習活動を積極的に支援する。	授業および学校行事の活動時間の確保を両立し、人間性豊かな生徒を育てる。 特別時間割・考查時間割等の早期の編成と適正な運用を行い、学習指導計画の遂行に寄与する。	①②③ ⑦	A		
	教務部の活動を活性化し教育活動の円滑化を図る。	教務部内の各担当部署の効率的な運営と部署間の連携を更に推進し、教育活動の円滑化を図る。 新システムを積極的に活用し、業務の効率化を図る。	⑩⑬⑭	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	身だしなみとマナーに係る段階的指導を継続的に実施し、頭髮・服装の適正化を図ることやマナーの向上を目指す。	④	A	A ・学校全体として生徒は落ち着いて生活できている。一部改善できていない者もいるが、身だしなみ、ルールやマナーの遵守、生活習慣についても多くの者が確立できている。次年度以降も継続して指導していきたい。コロナの感染予防で地域と連携して活動する機会が減っているため、次年度は考慮し、感染対策を万全にしたうえで少しずつ活動を増やしていきたい。また、精神的な問題を抱えている生徒が増えているように感じている。生徒の変化を見逃さず、教員間で常に情報を共有しながら組織として対応していきたい。生徒一人ひとりが意欲をもって生き生きと活動できる学校になるために、生徒指導部からも積極的に発信していくことが次年度以降求められる。	
		登下校指導で挨拶の重要性を理解させ、日々の遅刻指導と月間遅刻指導で遅刻者の減少を図る。	④	A		
	自己指導力の育成	学校行事や部活動等を通して、その場面でどのような行動が適切か、自分で考え実行する能力を身につけさせる。	④⑤⑦⑨	A		
	事故や問題行動の予防、いじめ根絶	学校活動や講演会を通して教員が積極的に働きかけ、リスク予測やリスク回避能力を身につけさせ、事故や問題行動の未然防止に努める。 また、学校生活アンケートを実施し、生徒の不安や悩み、学校に対する要望を聞く機会を設ける。	④⑤⑥⑦	A		
	保護者・地域・関係諸機関との連携	家庭との連絡を密にして、校則等の遵守に協力を依頼する。	⑤⑥	A		
		地域住民や関係諸機関と連携して校外における生徒のマナー指導を行う。	⑥	B		
地域の青少年相談員や幼小中学校・警察との情報連携を図る。		⑥	B			
進路指導	希望進路の実現	3年間の段階的な進路指導体制を構築し、年次・教科等と連携を密に図って生徒一人一人が目標とする進路実現を支援する。	④⑤	A	B ・各年次の先生方のご協力により、急速に変化する進路環境に概ね対応することができた。 ・進路指導は、学校の『グランドデザイン』等を基に、目指す具体的な方向性を学校全体で共有する必要がある。 ・大学入試のさらなる多様化により、特に学校推薦型や総合型の迅速で正確な情報収集、提供が不可欠。 ・今年度は面接や小論文指導の増加で、年次や教科を超えて全職員で支援する体制でご協力をいただいた。次年度以降も継続して支援体制の構築が望まれる。 ・年内入試の増加傾向にあっても実力養成を基本とし、一般受験にも対応できる体制づくりが必要。 ・進路希望のミスマッチを防げるよう、進路研究、科目選択などの情報の提供など、各年次で段階に応じた適切な指導がさらに必要となっている。	
		きめ細かな個別面談や三者面談を行えるように、生徒・教員・保護者のニーズを把握し、進路に関する資料や情報等を迅速に提供する。	④	A		
		ハローワーク等の外部機関と連携しながら、就職希望者に適切な情報を提供し、就職内定率100%を目指す。	④	A		
	進学指導体制の強化	一般選抜および学校推薦型選抜（指定校制・公募制）・総合型選抜等の選抜方法を研究し、総合学科の特色や生徒の適性・個性を活かした体系的な指導を充実させ、志望する大学等に合格できるよう支援する。	①⑤	B		
		年次の段階に相応しい課外や模試等のあり方を議論し、効果的に実践することで生徒の学力向上を図る。	⑤	B		
		朝学習や週末課題を通し自主的な学習習慣を促し、毎日の学習記録で自ら日常生活を見直すことで家庭学習の定着を図る。	②	B		
	キャリア教育の充実	「産業社会と人間」の授業を核として横断的・総合的な学習を行うことで、キャリア教育の充実を図る。	⑥⑧	A		
		ボランティア活動・インターンシップ等に積極的に参加することにより、適切な職業観や勤労観を育む。	⑥⑧	B		
※評価基準	A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分					

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評 価		次年度（学期）への 主な課題
特別活動	ホームルーム活動の活発化と、豊かな心の育成	ロングホームルーム・「道徳」・総合的な探究の時間等を中心に、学校生活のあらゆる場面で心の教育が行えるように努める。	⑩⑩	B	B	・文化祭・野球応援等の学校行事において、実行委員を中心に運営できるようにサポートしていく。 ・校務分掌内での役割分担が偏らないように配慮する。 ・文化祭の準備は早めに取り組んだ方がよい。 ・行事の前のロングホームルームを計画的に確保する。
		キャリアパスポートを作成させ、自身の姿容や成長を生徒自身が自己評価できるようにする。	⑩⑨	B		
		ボランティア活動への積極的な参加を促し、自ら地域社会に貢献する姿勢を身に付けさせる。	⑧	B		
	部活動の活性化	新入生を対象とした部活動紹介や体験入部を実施し、学校生活を送る上で重要な役割を果たす部活動への参加意欲を高めるとともに、その活性化を図る。	⑨	B		
	学校行事の充実	生徒会を中心とした生徒による自治活動を支援し、学校行事における生徒の主体的な取り組みを促す。	⑧	B		
		各年次やホームルーム・地域との連携を図り、よりよい学校生活が過ごせるよう工夫する。	⑧	B		
保健	生徒の生活習慣と心身の健康の確立を図る。	健康診断や身体測定の結果を有効に活用し、自ら健康管理に対する意識を高めさせる。	⑥	B	A	・新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザ感染拡大に配慮した上で、保健行事・各健康診断を実施する。 ・手指消毒・換気等の習慣化を指導知る。 ・清掃用具の定期的な交換・補充が出来るようにする。 ・ゴミの分別を徹底し、衛生的な教育環境を整える。
		感染症（新型コロナウイルス感染症）の予防について検温や消毒等自己管理できるようにし、生徒の体調の把握に努める。	⑥	A		
		安全教育の実施	緊急時の避難訓練を含む防災訓練を実施し、防災意識の涵養に努める。	⑥		
	教育環境の整備	生徒の衛生的な教育環境を確保するとともに、清掃活動の指導を徹底する。	⑥	A		
	思春期の心の育成と豊かな感性を養う。	生徒が日常的にカウンセリングを気軽に受けられる体制をつくる。	⑥	A		
		より豊かな成長の確立を目指し、自らの心と体に主体的に向き合えるよう講演会等で情報を提供する。	⑥	A		
渉外	P T A 活動の助成 保護者と教職員が協力して、生徒の健全育成を図り会員相互の研修や親睦を深める。	会員保護者との連絡手段としてまちcomiメールの利用や会議の出欠席集計にGoogleフォーム利用などICT技術を積極的に取り入れ、ペーパーレス化による業務の効率化を図る。	⑦	A	B	・PTAおよび同窓会組織の基本はフェイスToフェイスの関係が充実と成果をもたらすと考えるので方策を考えたい。 ・企画立案について継続して、保護者を巻き込む形で活動を進めたい。 ・校外研修会は事業の再検討を行いたい。 ・PTAの役員選考方法について、抜本改正の初年度の為、状況を注視したい。 ・PTA全国大会茨城県開催への協力と関東大会および県南PTAも発表校であり成功させたい。 ・同窓会はその取り巻く環境からの変化に対応した組織づくりと活動に協力したい。 ・活躍する同窓生を招き、在校生に有益な講演・学習となる事業を提案したい。
		会員にとって有益事業を企画・立案・実施に協力して調整を図る。（全体PTA事業・年次PTA事業の開催）	⑦	B		
		役員選出の方法について、改善点をさらに模索する。また、単位P T Aとしての参加活動は県南地区高P連「助言校」として役割を務める。	⑦	B		
	同窓会活動の助成 同窓会活動が本校発展に寄与できるよう連携を図り協力する。	同窓生の人的財産を有効活用し、在校生徒へ還元する事業と会員同士が情報交換に充実感の向上に協力する。	⑦	B		
		組織づくりの充実を進め、課題や問題解決のためその原因と方法を積極的に議論を進める。	⑦			
図書館	生徒・教職員の図書館利用を活発化させる。 本校の学習活動・教育活動を支援する。	新刊や話題書、新聞、雑誌類を機を逃さず提供できる体制を作り、社会の流れに即した図書館の構築を目指す。	⑦⑧	B	B	・書籍・雑誌類はほぼ滞りなく納品され、タイムリーに書架に配置することができた。貸し出しについては進路や検定に関連した資料が多いが、年次や各教科からも意見を聞いて新規に購入したい。 ・生徒の居場所作りの一環として、7月から開始した昼食時解放は定着しており、20名程度が利用しているため、次年度以降も継続予定である。また、短期間ではあるが教室に入ることによる不安を感じる生徒の利用もあり、引き続き年次等とも連携していく必要がある。 なお、視聴覚機器である電子黒板が配置されたため、次年度は「産業社会と人間」他の時間での利用を呼びかけ、図書館活動時間の増加の一助としたい。
		大学入試や就職試験等、生徒の進路実現につながる図書や資料を充実させ、情報収集力を育成すると共に知識の向上を促す。	①③	B		
		図書館及び所蔵資料を利用した授業が実施しやすいよう支援し、且つ、生徒の自学自習の場としての環境を充実させる。	①⑦	B		
		必要に応じて教育相談部・保健部・年次との連携を図り、生徒の居場所としての役割を果たす。	⑥	A		
		D V Dなどの視聴覚教材を取り入れた授業が行える環境を作り、授業以外での活用も提案する。	⑤	B		
		図書委員会、視聴覚委員会活動の強化を図る。	委員としての役割と責任を認識させ、主体的に活動できるよう指導する。また、学校行事や研修会などへの積極的な参加を促す。	⑨⑩		
※評価基準	A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分					

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評 価		次年度（学期）への 主な課題
教育相談部	心の問題を抱えている生徒の早期発見と適切な対応を行う。	担任や年次と常に情報を共有しながら。必要があれば支援体制を整え、外部機関との連携をはかる。	⑤⑥	B	A	・スクールカウンセリングの運営は円滑にできた。教育相談部の相談部より「談話室」を情報提供の場として考えていたが、生徒に十分に活用されていないような印象がある。ホームページ等で配信する方が、教育相談関係の施設等の情報を得る機会を増やすことはできるので、次年度は検討したい。職員対象の研修は、毎回テーマ選びが難航するのだが、今年度はアンケート機能で要望を集め、先生方は要望を出しやすかったと思う。スクールソーシャルワーカーは、家庭の状況の理解と調整、関係機関の情報提供等で大変力になってもらった。今後必要があればスクールソーシャルワーカーを要請し、連携して生徒を支える体制を維持したい。
		生徒が前向きに学校生活を送れるような環境づくりに努め、必要とされる様々な情報を提供する。	⑤⑥	B		
	スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーの効果的な活用および、保護者や教員との連携について支援する。	カスクールウンセリングを通して、生徒、保護者、教員への支援に努める。	⑥	A		
		スクールカウンセラーとの円滑な情報共有を図り、スクールカウンセリングの有効活用を促す。	⑥	A		
		職員対象の研修会を企画し、スクールカウンセリングに対する知識と理解を深める。	⑥	A		
		スクールソーシャルワーカーとの円滑な情報共有を図り、問題を抱える生徒の環境調整を図る。	⑥	A		
情報部	校内情報システムの円滑な運用	ネットワークサーバーや各教室のパソコン、ノートパソコン、タブレット、電子黒板の管理を徹底し、校内のハードウェア環境を整える。	⑨⑩	A	A	・校内のWi-Fi環境がまだ不十分であり、授業で電子黒板、タブレットが使用できない教室がある。速やかな整備のため、事務室や業者と、今以上の連携を図る必要がある。 ・現在、ホームページのリニューアルに取り組んでいるが、モバイル時代に対応した機能的なページを構築したい。 ・来年度の職員室の模様替えにもとない、LAN環境の改善を図る予定である。 ・新入生のタブレット導入について、スムーズに進めるために、システム化を図り職員間の共通理解を図りたい。
		校内のネットワーク環境を問題なく運用し、職員業務が滞りなく行えるように整備する。	⑨⑩	A		
	教育情報ネットワークの利用と連携	教育情報ネットワークの利用について情報を提供し、授業、HRの充実のため教職員と連携を図る。	⑨⑩	B		
		教助の設定、管理を行い、授業評価が円滑に進むようにする。	⑨⑩	A		
	外部への情報発信	ホームページを充実させ、広報としての役割を担うとともに、生徒の学校生活の相互理解をサポートする。	⑨	B		
		マチコミメールの登録、運用について情報提供し、滞りなく活用できるよう管理する。	⑨	A		
1 年 次	基本的生活習慣の確立	高校生として規律ある行動をとよう促し、身の回りの整理整頓や時間厳守など、集団の一員であることの自覚を身につける。	⑥	A	A	・人間関係の悩み等により心の問題を抱える生徒がだんだん出てきた。生徒情報をまめに共有し連携して生徒の心のケアにあたっていきたい。 ・スタディサブリ、クラッシー双方の利用により定期的な課題の配信とフォローにあたることで学習習慣の意識付けと定着を図ることができた。 ・次年度も各業者の様々な提案を参考に進路についての情報提供とワークショップを進路指導部と連携して行っていきたい。
	学習習慣の定着と学力の向上	日々の授業を大切にし、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。	①②	B		
		授業改善プロジェクトに沿い、生徒の実態に応じた授業や課外の在り方を考え、主体的、対話的な学びを実践する。	①③⑤⑥	A		
	個に応じた進路選択	分野別の学習内容および自分自身の適性について理解を深めさせ、総合学科の特色を生かした進路選択を提案する。	①②	A		
		進路についての情報や学習に対するアドバイスを積極的に提供し、個人の特性・希望にあった進路の方向性を見いだせるよう支援する。	②④⑤	A		
2 年 次	特別活動への積極的な参加	部活動や特別活動への参加を促し、個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。	⑧⑨	B	A	・オンライン学習サービスや進路ガイダンス等を活用し、年次生徒全体の学力やモチベーションの向上に努める。 ・主体的な学校行事への参加を促したり、教室での雰囲気づくりを工夫したりしながら、高校最後の一年を充実して生活してもらうよう努める。
		HR、行事、委員会、ボランティア活動を通して心の教育を推進し、学校生活の充実を図る。	⑧⑨	A		
	自己実現のための確かな学力や広い視野の育成	日々の授業の重要性を意識させ、課外授業やICT機器等を活用しながら学習に取り組ませる。	①②③	B		
		早期の進路希望決定に向けての支援を行い、進路実現に必要な能力の向上に努める。	③⑤⑩	A		
	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活を心がけ、夜更かしや深夜の外出は控えるよう指導する。	⑥⑦	B		
3 年 次	校則の順守と積極的な挨拶の推進	時間を厳守し、学校に遅刻をしないことや提出物は期限内に必ず提出するよう指導する。	⑥⑦	A	A	・進学実績を上げるためには、担任、年次の取り組みはもちろんだが、学校全体として意識を高めていく必要があると感じた。 ・精神面や進路に不安を抱える生徒が多く、1/3適用や欠席過多などが多くみられた。担任を中心にケアしていただき、退学や転学無く全員卒業を迎えられそうだが、今後も全体として支援をしていくべきである。
		自分勝手な行動を慎み、他人の気持ちを考えて行動するよう指導する。	④⑧	A		
	職員同士や保護者との連携	先生方や来客に、笑顔で元氣よく挨拶できるよう指導する。	④⑨	A		
		ICT機器等を活用しての情報共有を徹底し、生徒対応に差が出ないよう職員同士の連携を密にする。	⑪⑫	B		
	保護者との連携	保護者との連携を密にし、本校の指導に対して理解と協力をしていただくよう努める。	⑪	A		
希望する進路の実現に向けた指導の徹底	希望する進路の実現に向けた指導の徹底	希望する進路に必要なものを整理させ、計画的な学習ができるよう指導に力を入れる。	①③	A	A	・大きなトラブルなく生徒の進路実現の支援ができたが、受験の形態の激化に翻弄され混乱する場面があったので、進路指導部を中心に生徒に不利益が生じないような態勢をしっかりと作る必要があると感じた。
		生徒と密にコミュニケーションを図り、より良い進路実現に向けて様々な角度から生徒をサポートする。	②③	A		
	社会人としての能力向上や意識の醸成	自分勝手な行動を慎み、他人の気持ちを考えて行動できるよう指導に力を入れる。	④⑤	A		
		経済や社会情勢に目を向け、自分も社会の一員であることに自覚を持たせる。	⑦⑧	B		
	健康的、計画的な行動の徹底、学習効率の良い環境づくりの促進	SNS、ゲームなどに時間を割きすぎないよう、限られた時間を考えて行動させる。	④	B		
職員同士や保護者との連携	職員同士や保護者との連携	身の回りの整理整頓を習慣づけさせ、学習効率の向上を図る。	④	A	A	
		ICT機器等を活用して情報共有を徹底し、生徒対応に差が出ないよう職員同士の連携を密にする。	⑩⑥	A		
保護者との連携	保護者との連携	保護者との連携を密にし、本校の指導に対して理解と協力をしていただくよう努める。	⑥	A	A	

※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分